

イワウメヅル	<i>Celastrus flagellaris</i> Rupr.	準絶滅危惧
		ニシキギ科
選定理由	分布域の一部で生育条件が悪化しているため。	写真(近藤英毅)
形態の特徴	若い枝には微細な乳頭状突起があり、托葉が一对の刺となって宿存することがある。葉は鋸歯が鋭く先は芒状。葉身は円形～楕円形、長さ1-7cm、幅1-5cm、葉身に対して葉柄は長く約1.5cm。花期は5-6月。花は柄が短く、葉腋や芽鱗のわきに少数花をつける。	
生態的特徴	山地の林内に生える雌雄異株の落葉藤本。	
分布状況	本州(関東地方以西)・四国・九州の暖帯から温帯に分布し、岐阜県では全県に分布するが、産地は少ない。	
減少要因	開発に伴う山林伐採。	
保全対策	山林の保全。	
特記事項		
参考文献	清水建美. 1989. ニシキギ科. 「日本の野生植物 木本Ⅱ」(佐竹義輔・原寛・巨利俊次・冨成忠夫編) pp33-42. 平凡社, 東京.	

文責: 清水英彦